

世界最大の医療機器見本市 「メディカ・コンパメッド」

世界 66ヶ国から 5,286社が出席

11月18日から11月21日までの4日間、ドイツ・デュッセルドルフの見本市会場にて、世界最大の医療機器見本市「メディカ (MEDICA)」が、医療機器技術・部品見本市「コンパメッド (COMPAMED)」と併催されました。昨年度は66ヶ国から5,286社の企業が出展し、会場には世界155ヶ国から12万人以上が来場しました。

【世界最大の医療機器見本市「メディカ」「コンパメッド」】



日系企業の出展は、メディカ、コンパメッドを合わせ197社（メディカ112社、コンパメッド85社）と、昨年の165社を上回る過去最高の出展となり（欧州などからの日系現地法人出展は上記とは別に23社出展）、海外代理店との契約や海外企業からの受注獲得に至る企業も増加したといいます。

メディカでのグループ出展としては、ジェトロが設置したジャパン・パビリオンに25社が出展、日本医療研究開発機構 (AMED) もパビリオンを設置、民間企業でもユニシスがジャパン・ブランドをコンセプトに中小企業パビリオンを設置しました。コンパメッドでは、横浜企業経営支援財団 (IDEC 横浜)、東京都、神戸市、長野県諏訪市、信州、福島県、さいたま市、浜松市、大田区がパビリオンを設置し、中小企業を中心とした出展や商談をサポートしました。

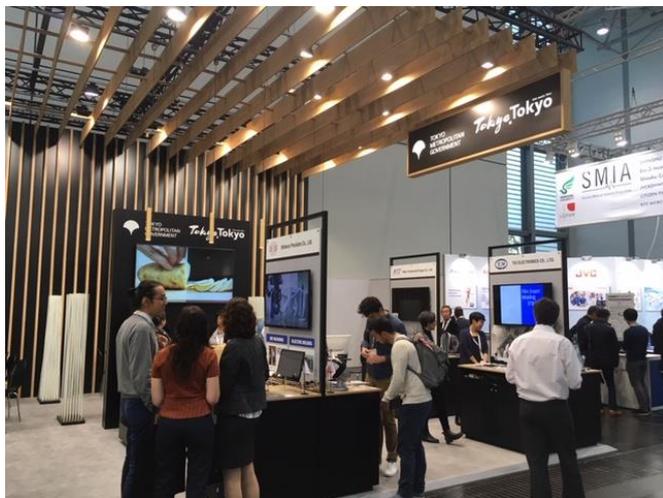
【25社が出展したジェトロのジャパン・パビリオン】



【3年連続でのパビリオン設置となった横浜企業経営支援財団 (IDEC 横浜) 横浜市内企業5社が出展】



【東京都のパビリオン】



「対日投資セミナー」で神奈川県・横浜市が講演

今回のメディカ・コンパメッドでは、JETRO主催の「対日投資セミナー」が開催され、ライフサイエンス分野等における日独企業の連携事例のPRや日本国内地域へのドイツ企業の投資誘致施策の説明がなされ、約50名が参加しました。

【メディカ・コンパメッド最終日に開催された「対日投資セミナー」】



【産学連携の取り組みを紹介する千葉大学】



千葉県・千葉大学、茨城県・筑波大学、宮城県・東北大学からは、医療分野に関する産学連携の取り組みが紹介されました。

神奈川県と横浜市からは、それぞれ対日投資の実績と投資環境の魅力を、ケーススタディを交えて講演され、来場者は神奈川県・横浜市の投資環境の魅力を実感していました。

【神奈川県 産業労働局 産業部 企業誘致・国際ビジネス課による講演】



【横浜市フランクフルト事務所による講演】



来年、2020年は11月16日-19日の開催予定の「メディカ・コンパメッド」、さらに多くの日系企業の出展が予想されます。

以上

本レポートは情報提供のみを目的として作成したものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
 ご利用に関しては、すべてお客さまご自身でご判断くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。
 本レポートは信頼できると思われる情報に基づいて作成していますが、当行はその正確性を保証するものではありません。
 本レポートのご利用によりお客さまがいかなる損失、損害を受けられても当行は一切の責任を負いません。
 本レポートはお客さま限りでご利用くださいますようお願いいたします。